

# 「おはよう」

小田原市立泉中学校

三年 池田 陽咲

私が小学校の頃、登校する時に毎日「おはよう」と言ってくれるおばあちゃんがいました。そのおばあちゃんは、毎朝同じ所に立って小学生や中学生に挨拶をしていました。そんな一言から会話が始まる事もあり、急いでいる日は「今、何時ですか？」と聞いたり、雨が降ってきた日は傘を貸してくれたり、時には戦争の話もしてくれました。おばあちゃんがいつもの場所にいないと私は不安になり、その日の夜は明日もおばあちゃんがいなかったらどうしよう、病気にかかっているのかもしれない、など考えてしまうほどおばあちゃんの事が大好きでした。

しかし、中学生になると通学路が変わり、気が付くとおばあちゃんを見ることはなくな

っていました。中学生になると毎日忙しくやらないといけないことと、やりたいことで押し潰されそうになり、登校する時は大股でずかずかと歩いていました。

そんなある日、いつも通り学校へ向かっていると、前から女の人が歩いてきました。そしてすれ違うときにその女の方は「おはようございます。」と、挨拶をしてくれました。私は、女の人が向かってくるな、としか考えておらず、挨拶をしてくれた時は、頭が真っ白になり、その挨拶を無視してしまいました。その時の女の方は、すぐさま下を向いて暗い雰囲気をもとい、足早にすたすたと目の前を通りすぎてしまいました。

すこし時間がたつと「自分はおはようございますすさえ言えなかったのか」と、自分で自分にバツ印をつけてしまったかのような、友達にひどい事を言われた時とは違う悲しさを感じました。そして、あのおばあちゃんが私の脳裏に浮かびました。おばあちゃんがくれ

た「おはよう」はとても温かく優しい言葉だったと身に染みました。

そこから私は、すれ違う人に挨拶すること  
を心がけて生活しています。挨拶をされて傷  
付く人は一人もいないと思います。むしろ、  
周りと自分を認め、温かく、優しい気持ちに  
してくれます。何もはずかしいことではない  
のですから、私のように挨拶を絶対に無視し  
ないでください。始めは小さな声でも、目を  
合わせられなくても、四文字だけの「おはよ  
う」を言ってみてほしいです。そうして、明  
るい言葉と会話であふれる社会をつくりまし  
ょう。